

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症心身障害児放課後等デイサービスリラ			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和7年3月15日		～	令和7年4月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障害をお持ちの利用者様は言葉を発することはできないが、声を出すことはできるため、スタッフからの問いかけの際は、利用者様の声（返事）と合わせ、まなざし・表情を注意深く観察し、意思の確認をしている。	利用者様が疎外感や孤独感を感じることがないように、できるだけ数多く声かけをするようにしている。	利用者様のご利用が多い日は、時間を決めて、もれなく利用者様に声かけをしている。
2	系列事業所で行っている米ぬかカイロ作成やダンス教室に参加している。また、通常のサービスに加え、動作法の施術も行っている。	作成した米ぬかカイロは、排泄が無いまま登所されたご利用者様の腹部の暖めに利用し、排泄を促している。（多量の排泄がみられることが多々あり）	現在、動作法の施術は月に2～3回ほど、外部講師を招いて行っているが、当事業所スタッフへも動作法の研修を行い、今後、利用者様により多く動作法の施術を行えるよう、検討している。
3	日頃から利用者様の状況について、保護者様と密に連絡を取り合い、情報共有と共通理解を図っている。	学校お迎え時に口頭等で得たその日の支援内容や利用者様の様子を保護者様へもお伝えし、情報共有を徹底している。また、保護者様からの情報は当事業所スタッフも共有するようにし、適切かつ迅速な対応を心掛けている。	利用者様への定期的なモニタリングのみならず、必要とされる際は面談や電話対応を行ったり、適宜アドバイスをすることにより、より良い支援につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	防災訓練・避難訓練について一部周知漏れがある。	訓練は定期的に行っているが、利用者様のご利用日はバラバラで、全員参加の訓練が困難であることから、保護者様への周知徹底ができていない。	ご利用者様のご利用状況を踏まえ、複数回の訓練実施を検討するとともに、訓練への参加の有無に関わらず、当事業所の取組み内容等をもれなく情報発信できる方法も検討する。
2	保護者様同士や地域の方等の交流がない。	長らくコロナウィルスの流行が見られたこと、また、ご利用者様は障害が重く、感染症に罹病の際は生命に関わる事態も想定されることから、多数の方と関わる交流会の開催等は控えていた。	厳密な感染症対策を行いつつ、外部の方との交流を持つことができるよう、交流の内容やその実施方法等について検討していく。
3			